

スズキ、インドネシア国際モーターショーへの出品概要

スズキ株式会社のインドネシア子会社スズキ・インドモビリティ・モーター社（以下 SIM 社）は、9月18日*からインドネシア・ジャカルタで開催されている第22回インドネシア国際モーターショーにおいて、小型乗用車「ワゴンR」の新グレード「ワゴンR GS」（現地名：Karimun WagonR GS）を発表し、参考出品車や市販車などの四輪車を出品した。

※プレスデー：9月18日、一般公開日：9月19～28日

18日に行われた記者発表で、スズキの鈴木俊宏副社長は「2015年の年初から、ジャカルタ東方にある GIIC 工業団地の新しい四輪車組立工場が稼働する計画である。これにより、インドネシア全体の生産能力は25万台となり、拡大するインドネシア市場の需要に対応するとともにアセアン地域およびその他の地域への輸出を強化する。」と挨拶した。

【ワゴンR GS】

「ワゴンR GS」（1,000cc）は、2013年11月に発売した「ワゴンR」の新グレードで、インドネシア政府の LCGC（Low Cost Green Car）政策に適合するモデルとして SIM 社で生産・販売する。日本の軽乗用車「ワゴンR スティングレー」をベースとした、スタイリッシュな外観デザインと、黒を基調とした質感の高い内装を採用し、初めて車を購入する若年層を中心としたニーズに応じていく。

【その他出品モデル】

参考出品車	SX4 S-CROSS、セレリオ、ハスラー
市販車	ワゴンR、エルティガ、スイフト、スイフトスポーツ、スプラッシュ、APV

